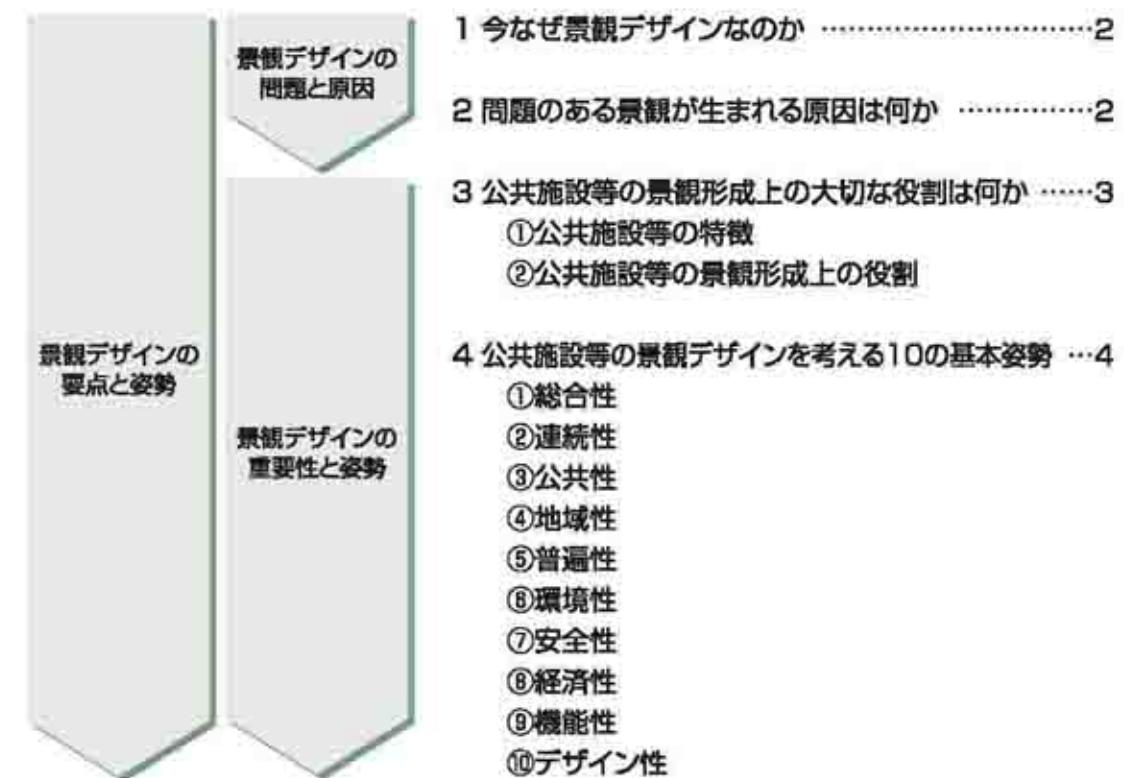


なぜ、景観デザインなのか



なぜ、景観デザインなのか

1 今なぜ景観デザインなのか

本市は、明治初頭にまちづくりが始まり、130年余で人口約190万人の大都市に成長しました。その結果、道路や河川、学校などの公共施設等は量的(ものの)に充足しましたが、急激な都市化のため、経済性や効率性、機能性が最優先され、“美しさ”や“個性”などへの配慮を欠いていたことは否めません。

しかし、近年、都市化の終息や人口減少傾向により、“量”的時代は終わり、これからは、少子高齢化の進展やライフスタイルの変化、価値観の多様化などの到来により、質的(こころの)充足の時代に入ったといえます。

景観は、生活の営みが視覚的に表出したものですが、一方、良好な景観を求めるることは、良好な生活づくりにつながるスパイラルな関係にあります。ガイドラインを基に景観デザインを実行することで、美しく魅力的な景観づくりを推進し、景観面から生活や文化の質を高めることを目的としています。

2 問題のある景観が生まれる原因は何か

完成した公共施設等のデザインは、ものをつくる作り手の考え方方が形となって現れたものです。作り手は、一人かもしれないし複数かもしれません、何らかの問題ある景観が生じた場合、その原因として「ひとりよがりの考え方をした」、「まわりの環境をよく見なかった」など、必ず原因があります。この原因をしっかりと見つけ出すと同時に、景観デザインの基本的な考え方を理解し、身に付け、実行することが大切です。

問題のある景観が生じる事例

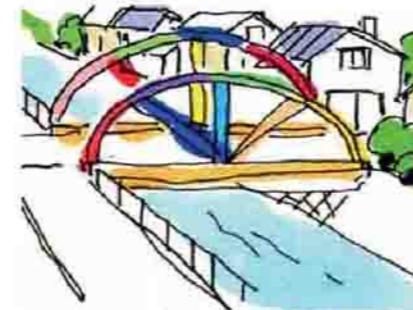
Case1 唐突とした色彩が採用された

◆好ましくない考え方

公共施設等は、市民みんなが利用する施設であり、周りから見てわかりやすい方が良いと考え、カラフルで周囲から際立つ色彩を採用した。

◆ ◇ ◇ ◇ 原因

施設の周辺環境の中での公共施設等が持つ景観的役割を考慮せず、わかりやすさを単純に色彩のみに求めたことに、原因があります。



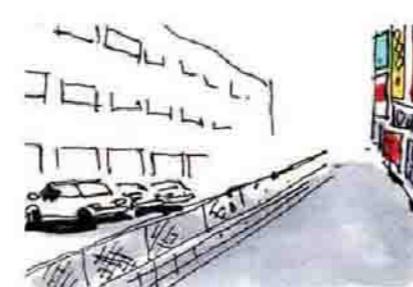
Case2 潰いが感じられない街なみが形成された

◆好ましくない考え方

管理が面倒で、また、周辺には街路樹など大きな木があるため、あえて敷地内に植栽を行わなかった。

◆ ◇ ◇ ◇ 原因

公共施設等が、良好な都市景観を先導する役割を持っているにもかかわらず、施設管理上手間がかかるため、植栽は必要ないと勝手に思いこんでいたことに原因があります。



Case3 直喩的デザインとなった

◆好ましくない考え方

この地域には以前、ある動物が住んでいたので、街灯や柵や塀など隨所に、その動物の形を取り入れた。

◆ ◇ ◇ ◇ 原因

真のデザインのあり方は、街灯や柵など、本体そのものの美しさを中心に考えるべきですが、具象的な形を付加することがデザインと誤解していることに原因があります。



Case4 雪により問題が生じた

◆好ましくない考え方

当初、建物周りは通路や広場、庭などとして考えていたが、建築計画を進めるうちに、そのようなスペースを設けることができなくなった。

完成後、敷地から歩道へ雪出しが行われ、大きな雪山ができてしまった。

◆ ◇ ◇ ◇ 原因

大雪や吹きだまりを想定せずに、建物の周囲に十分な堆雪スペースを設けなかったことが原因です。敷地内から出された多くの雪は景観上好ましくないことはもちろん、歩行者や車の見通しを遮り、安全安心な通行の障害になります。



まだまだ、がっかり事例はたくさんあります

- ・札幌は歴史が浅いので、歴史性を踏まえる必要はないと考える
- ・設計対象しか興味がないため、周辺公共施設等との関係を無視する
- ・施設完成後の維持管理を考えず、流行を追ったり人目を引く奇抜なデザインを優先する

3 公共施設等の景観形成上の大切な役割は何か

① 公共施設等の特徴

- 年齢を問わず、多くの人が利用する
- 大規模な施設が多く、景観的影響力が大きい
- 都市の骨格を形成する
- 空間の機能や役割に永続性がある



大通公園



大通公園周辺道路

琴似発寒川

道庁赤レンガ庁舎

② 公共施設等の景観形成上の役割

道路、公園・緑地、水辺・河川、橋りょう、公共建築物などの公共施設等は、全市にわたって、地域の景観の基調となることから、個性的で魅力的な札幌の都市景観の形成に向か、民間の施設の景観デザインを先導する役割を持っています。

4 公共施設等の景観デザインを考える10の基本姿勢

1

なぜ、景観デザインなのか

公共施設等は、景観の基調として都市景観の形成を先導していかなければなりません。

景観デザインを考える上で大切な10の基本姿勢を次のように示します。

① 総合性………全体と部分が調和していること

デザインする施設の各要素がバラバラではなく、バランスよく配置され、ディテール*と全体のイメージが食い違いのないよう、関係性、関連性を持ち、調和していかなければいけません。

② 連続性………時間、営みが景観要素とつながっていること

土地の歴史的背景などの時間の流れ、人の営みなどが考慮され、周囲の景観要素と連続して考えられたデザインとなっていなければなりません。

③ 公共性………公共も民間も共に考えること

公共施設等はもちろん、住宅や商業施設などの民間の施設も街なみをつくる景観要素です。施設をつくるときには、公共も民間も常に“市民共有の財産をつくる”という視点で考えなければなりません。

④ 地域性………その土地らしい個性があらわされていること

形態や素材、色彩の選定に地域の歴史や風土などが体現されることで、その土地らしさがあらわされた景観デザインが可能となります。

⑤ 普遍性………時間の経過と共に美しくなること

時間の経過とともに、歴史や人の営みが刻まれ、美しさや素材の持ち味、深みが増す素材の選定など、エイシング*を考慮したデザインがなされなければいけません。

普遍性、持続性、堅牢さなどが求められます。

⑥ 環境性………土地の環境に過大な負荷をかけないこと

地形の大きな改変や樹木の伐採などは、土地の環境に大きな負担を与えるとともに、景観も大きく変化させます。場所の地勢や環境を読み解きながら、環境負荷を軽減するデザインにしなければなりません。

⑦ 安全性………安全とともに安心感を与えること

良質な景観デザインであると同時に、安全性も保たなければなりません。良質で安全な施設は、利用者に安心感を与えます。

⑧ 経済性………建設費と維持管理費などが経済的であること

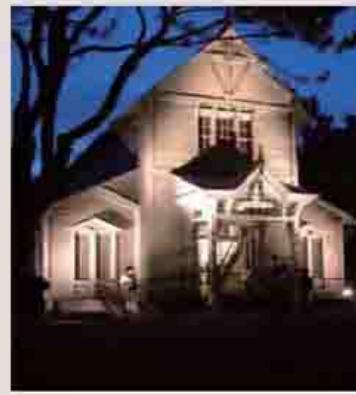
良質なデザインを求めるコストアップするというのは、必ずしもそうではありません。イニシャルコスト*やランニングコスト*を抑えながら、良質な景観デザインを実現することは可能です。
建設、維持管理、廃棄時の費用など、ライフサイクルコスト*を考慮した景観デザインが必要です。

⑨ 機能性………必要な機能を十分に満たしていること

デザイン性、安全性、経済性と同時に、機能性を無視することはできません。機能面とデザイン面の両面に配慮された施設づくりがなされなければなりません。

⑩ デザイン性………デザインの原理に即していること

いつまでも親しまれる施設にするため、飽きのこないデザインにすることが大切です。50年後、100年後を見据えたデザインを心がけ、安全で機能的であることに加えて美しくなければなりません。



北海道大学農学部附属植物園内



道庁赤レンガ庁舎中庭



真駒内



北海道大学



新さっぽろ雪祭り



モエレ沼公園

*用語解説【ディテール：デザインや施工の詳細のこと。】

【エイシング：時間の経過とともに素材の味わいや深みが増すこと。】

【イニシャルコスト：建設時にかかる費用のこと。】

【ランニングコスト：施設を維持していくのに必要な費用のこと。】

【ライフサイクルコスト：建設にかかる費用だけではなく、維持管理や改修、廃棄に必要な費用も含めた総合的な構造物のコストのこと。】

1

なぜ、景観デザインなのか

「さっぽろ」らしい景観デザイン

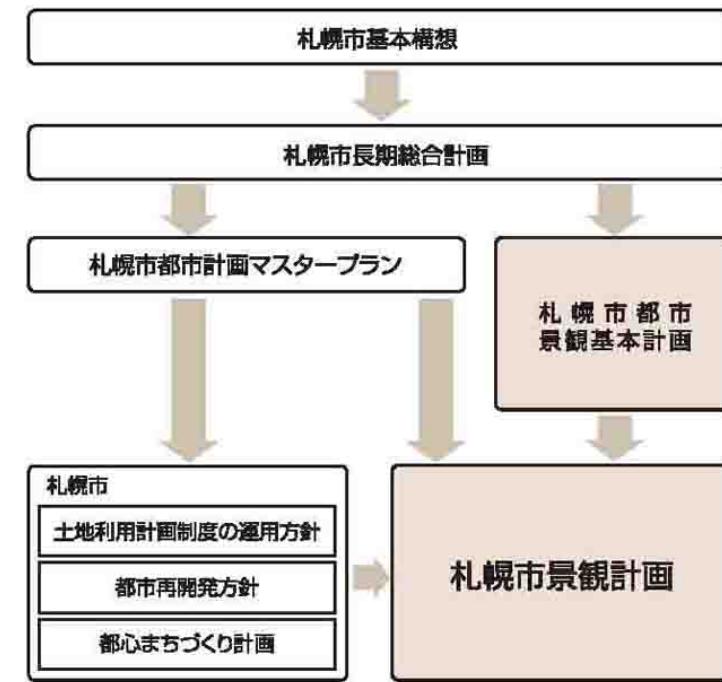
景観形成の目標	1 札幌市景観計画 8 (1) 景観計画区域(市域全域) 8 (2) 景観形成の基本理念 9 (3) 景観形成の目標 9 (4) 景観形成の基本指針 9 (5) 地区別の目標及び基本方針 9
景観形成の目標と 「さっぽろ」の 特性	2 「さっぽろ」らしい景観デザインとは 10 (1) 歴史的特徴を捉える 10 ① 札幌の歴史 ② 地域の素材 ③ まちの地名と先住民族の歴史 (2) 季節的特徴を捉える 12 ① 季節の変化 ② 北国の季節的特徴と季節を感じる構成要素 (3) 地形的特徴を捉える 14 ① 扇状地 ② 平地 ③ 丘陵地 ④ 山麓地 (4) まちづくりの特徴を捉える 16 ① 都市と自然が共生するまちづくり ② 都市構造を生かしたまちづくり ③ 多様な機能と個性を持つ地域づくり ④ 市民参加によるまちづくり
「さっぽろ」 らしい 景観デザイン	

「さっぽろ」らしい景観デザイン

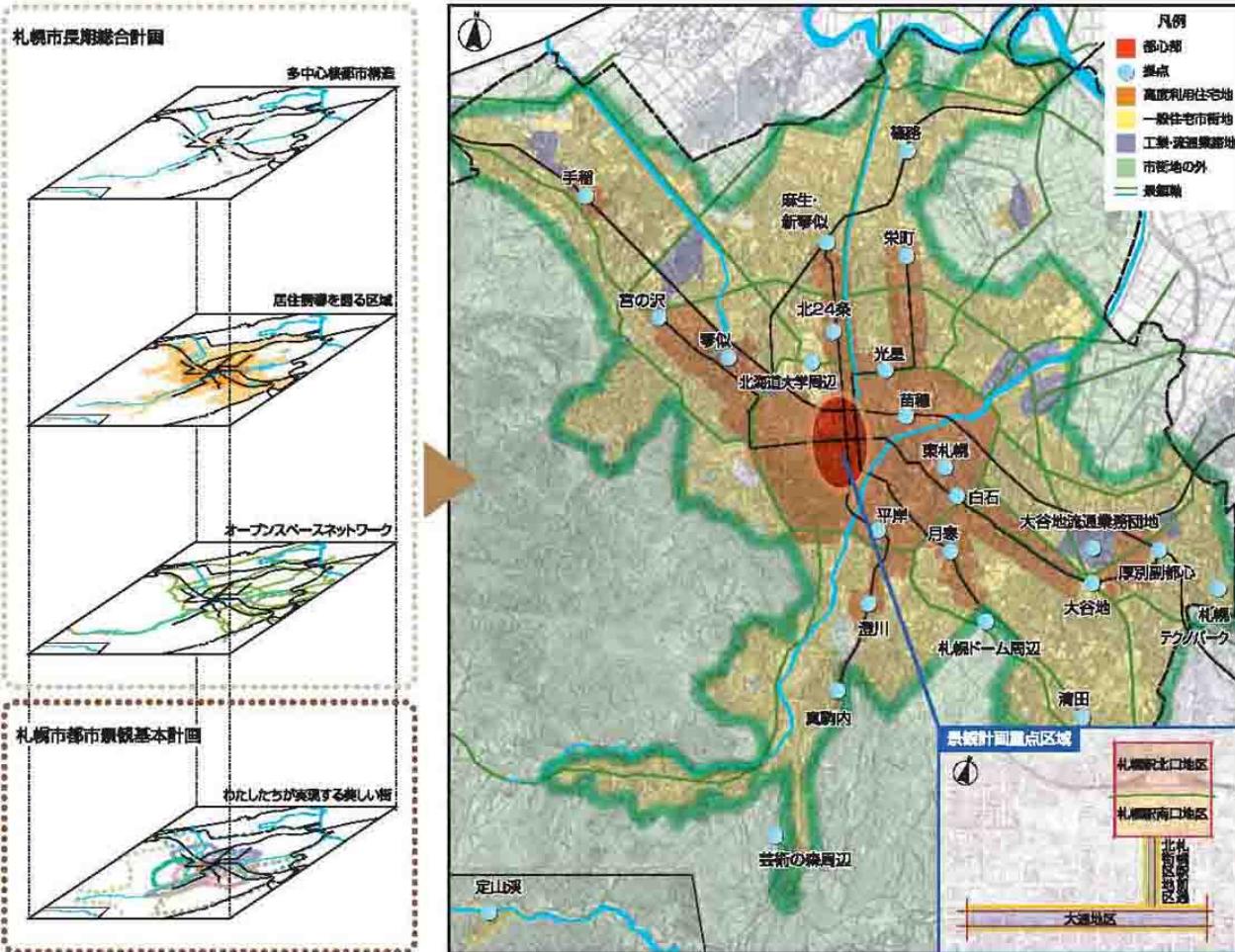
1 札幌市景観計画

「札幌市景観計画」は、「札幌市基本構想」と、それを実現するための「札幌市長期総合計画」の2つのまちづくり計画と連動した、より実効性のある景観施策の展開を図るため、「札幌市都市景観基本計画」を軸に土地利用的な視点の「札幌市都市計画マスターplan」や関連計画などを勘案し、策定しています。

ガイドラインは、これと一緒に、地区特性に合った良好な景観形成を推進するものです。



(1) 景観計画区域(市域全域)



(2) 景観形成の基本理念

「透明感と輝きをもつ美しい北の都市をつくりあげる」

(3) 景観形成の目標

環境と風土を生かす	四季の移ろいを生かす	歴史から学び未来に育てる	すべての人にやさしい視点をもつ	みんなの力で積み重ねる
-----------	------------	--------------	-----------------	-------------

(4) 景観形成の基本指針

街路都市から街並み都市へ 快適な道路空間をつくる	地形を生かす 魅力ある拠点をつくる	自然と調和するまちづくり 時を演出する	緑を守り、育てる ヒューマンスケールのまちづくり	潤いある水辺を演出する 防災に配慮したまちづくり
-----------------------------	----------------------	------------------------	-----------------------------	-----------------------------

(5) 地区別の目標及び基本方針

① **都心部** - 札幌の中心部、高層ビルが建ち並ぶところ -



② **拠点** - 主要な駅や広域から人が集まる施設のまわり -



③ **高度利用住宅地** - 中高層マンションや低層住宅が混在するところ -



④ **一般住宅市街地** - 低層住宅が建ち並ぶところ -



⑤ **工業・流通業務地** - 工業・流通団地 -



⑥ **市街地の外** - 市街地を取り囲む山々や緑豊かな平地 -



⑦ **景観軸** - 地域をつなぐ主要な道路や河川の網と水の軸 -





2 「さっぽろ」らしい景観デザインとは

「さっぽろ」らしい景観デザインを考えるとき、札幌の生活文化の特徴を捉えることが基本となります。そのためには、[歴史][季節][地形][まちづくり]の「4つの特徴」を踏まえ、計画の対象となる地域に、どのような「さっぽろ」らしさがあるのかをきめ細かく捉えることが重要です。これを基に、地域特性を読み解き、公共施設等の景観デザインに生かしていきます。

(1) 歴史的特徴を捉える

札幌の歴史は、先住民族の文化が既にあったこと、外国人技師の先進の技術が導入され、まちづくりが行われたこと、そして、レンガや札幌軟石などを用いた歴史的な建築物が多く残されていることなどが、大きな特徴です。

① 札幌の歴史

◆ 開拓期の歴史

明治に入り(2年当時)、札幌を本府建設として、開拓使によって新しいまちづくりが始まり、大通と創成川を基軸とした格子状の街路により、現在のまちの骨格がつくられました。そこにつくられた公共施設等は、市民のよりどころとなる重要な施設でした。

◆ 戦前、戦後の歴史

大正時代には、軍需を背景として工、鉱業の発展と共に、馬鉄や電車が整備されました。その後、円山、山鼻などの宅地化や札幌駅前通りが整備されるなど、街路、上下水道、公園整備などの社会基盤整備が進みました。

戦後は、都心部に本州の大企業進出が相次ぎ、昭和41年には冬季オリンピックの招致が決まり、地下鉄の開通などまちの様相は大きく変わりました。

第2章 デザインアプローチ編

「さっぽろ」らしさ
生活文化の特徴を
捉えることが
景観デザインの基本

歴史的特徴
季節的特徴
地形的特徴
まちづくりの特徴

第3章 デザインアプローチ編

地域性の読み解きが
景観デザインを
考える手がかり

第4章 デザイン手法編

施設ごとの具体的な
景観デザイン

◆ 近年の歴史

冬季オリンピック後、札幌は政令指定都市に移行し、郊外にも計画的に住宅が整備され、人口が増加していきました。昭和63年には都市景観要綱を制定し、大通や札幌駅前通りでは、札幌の顔にふさわしい景観形成が始まりました。

② 地域の素材

明治時代、札幌のまちの草創期には、支笏湖火山の噴火による火碎流によってできた溶結凝灰岩(札幌軟石)が建材として多用されました。また、明治初期には、欧風建築が波及し、火災に強いレンガや札幌軟石は、開拓使によって奨励され、道庁赤レンガ庁舎に代表されるレンガや軟石の建物が増えました。

③ まちの地名と先住民族の歴史

北海道の地名の多くは、先住民族の言葉に漢字をあてたり、意訳したもの、あるいは開拓者たちの故郷の地名を持ち込んだもの、農作業や開拓にちなんだものが付けられたといつていでしよう。先住民族の地名は、その土地の環境や地形を言い表したものが多いため、地名は地域の成り立ちなど、歴史を知る手がかりとなるだけでなく、まちの個性や環境を考える上で重要な視点となります。

先住民族の地名に由来するもの	札幌、豊平、月寒、望月寒、平岸、真駒内、琴似、発寒、手稻、苗穂、烈々布、藻岩、盤渓、譲舞、茨戸、伏籠、厚別、薄別、釜谷白、無憚根、小別沢など	例 札幌=サッ・ポロ 乾いた広いところの意味。(諸説あり)
人名、入植者に由来するもの	定山渓、薄野、手稻山口、手稻福井、手稻前田、手稻稻穂、藤の沢、美香保、荒井山、大倉山、安春川、白石など	例 定山渓=僧侶の美泉定山によって発見、開発されたため。
開拓、まちづくりに由来するもの	八軒、二十四軒、屯田、桑園、水車町、麻生、羊ヶ丘、伏見、宮の森、宮ヶ丘、旭町、隈、元町など	例 桑園=開拓時代、養蚕が奨励され桑の木が植えられた地域であった。

デザインのしどころ 歴史的特徴の捉え方例

● 歴史資源の拠点を見つける



札幌市時計台

札幌市時計台や道庁赤レンガ庁舎などは、札幌の歴史の拠点となる場所です。

歴史的な拠点の再発見や再認識、そして保全は、歴史と文化の継承とともに、新たな歴史の創出につながります。

● 空間整備に生かす視点で周辺環境を見る

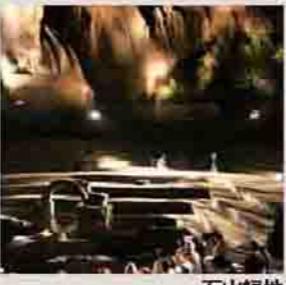


札幌駅前通りの街灯

歴史あるものを空間整備に生かすことができるよう検討します。

生かすことで、生活を支えてきた産業などの文化を守り、伝え、また、歴史と現代が融合する新たな魅力の景観形成が実現します。

● 歴史の移りわりやエイジングを見る



石山緑地

年月の経過や人の営みの積み重なりによって、味わいや深みの増す素材や空間があります。

歴史や時間の移りわりを総体的に捉え、飽きのこない普遍的な景観デザインを考えます。

● 地域固有の技術を見つける



紅桜庭園

伝統的な工法や技術は、歴史的な価値があります。

その土地で培われた技術を後世に伝えることで、地域の産業や文化を生かした個性豊かな地域づくりにもつながります。

デザインの勘所 歴史的資源の生かし方例

■ 古い建物や古木などを探す

古い建物や古木、土木構造物などを手がかりに、歴史的な資源を再発見し、まちの歴史を伝える拠点として空間整備に生かすことが大切です。それは単にそのものを保全するというだけではなく、技術やディテールなどの継承、精神や場の継承などに広がります。

■ 伝統的産業の持つイメージを生かす

伝統的な基幹作物である玉ねぎをはじめ、多品目の野菜が生産されており、また、ビールや乳製品、製麻などの産業・農業の特徴があります。それぞれの歴史的な背景や歴史的資源と、それらが持つイメージを、施設のデザインや素材に生かすことが大切です。

■ 地域の素材を探す

素材に及ぼす経年の変化をあらかじめ考慮し、時間や歴史の積み重ねが生きる(エイジング)素材選びが大切です。例えば、札幌軟石やレンガなどは、その代表格といえます。地場産出の素材やエイジングのきく素材を選ぶことで、地域の景観に味わいや深みが生まれます。

■ 地域固有の建築・土木・造園技術を再現する

建築や土木、造園の技術は、土地の気候風土によって異なります。その土地で培われた技術や工法を再現することで、新たな歴史的資源の創出が可能となります。

樹木の冬囲いや雁木などは、積雪地ならではの技術を生かした景観です。

2 「さっぽろ」らしい景観デザインとは



(2) 季節的特徴を捉える

「さっぽろ」は、明瞭な季節変化が特徴です。

春と秋が短く、新緑のまちから深緑のまちへ、紅葉のまちから深秋、そして白銀のまちへと、ドラマティックにまちの表情が変化します。

① 季節の変化

四季は8つに、さらに24の節に細分化され、日々変化する季節の移ろいや農事の目安とする言葉で表されています。四季の変化が感じられる景観は、人々に安らぎや潤いを与え、まちの個性や私たちの暮らしを豊かに演出します。

② 北国の季節的特徴と季節を感じる構成要素

春から冬までの気温や、日の長さなどの環境変化に加えて、植物や動物、季節の事柄など、さまざまな要素によって季節の変化を感じています。これらの要素をしっかりと生かすことで、より四季の変化を感じることができ、地域性や景観的特性の演出が可能になります。

植物：春の花、秋の実、新緑→深緑→紅葉→落葉の変化、花や紅葉時の香りなど、植物は、最も身近に四季の変化を感じさせます。

動物：チョウ、トンボなどの昆虫や、鴨や鮭などの動物は、鳴き声や個体変化などを含め、季節を知らしめる使者です。

天候・気候：一年の約1/3が雪に覆われる札幌は、冬の景観がまちの個性をつくり出しており、厳しい冬があるからこそ、夏の暑さや春・秋の清々しさが直接肌を通して季節の変化を感じさせてくれます。また、札幌は、高緯度に位置するため、冬期間の日没時間が長く、夜間の景観にも配慮が求められます。

季節を感じる景観要素

季節	主な要素			植物	昆虫	動物	天候・気候	市民生活（イベントなど）		
	季節	立春 雨水 啓蟄 春分 清明 穀雨	立夏 小满 芒種 夏至 小暑 大暑							
春	早春			・新緑 ・芽吹き ・花	・エゾヤマザクラ ・エゾムラサキ ・ツツジ ・キタコブシ ・カツラ ・レンギョウ ・フクシモウ ・ハクモクレン	・エンレイソウ ・オオバナ ・エンレイソウ ・エゾエンゴサク ・ミズベンショウ ・フキノトウ ・セイヨウタンポポ ・クロッカス	・カムシ ・エゾシロチョウ ・モンシロチョウ ・テントウムシ	・ヒバリ ・カッコウ ・ウグイス	・雪解け ・中間期 ・春一番(風) ・梅雨 ・虹 ・長期積雪の終日	・ライラック祭 ・よさこいソーラン祭 ・運動会 ・噴水開き ・ピクニック ・炊事遠足
	晩春									
夏	初夏			・深緑 ・緑陰	・ハリニレ ・ライラック ・オオバボダイジュ ・ハクウンボク ・ハジイロ ・トチノキ※ ・ラベンダー	・ボラ ・ヤマグワ ・アシサイ ・ハマナス ・ムクゲ ・スラン ・ニセアカシア	・エゾノリゼミ ・クワガタムシ ・ギンヤンマ ・ミヤマカラス ・アゲハ ・キアゲハ ・オオムラサキ	・アカゲラ※ ・ツバメ ・ムクドリ ・サギ ・カエル ・カジカ	・日が長くなる ・暑くなる ・夕立ち ・雷 ・入道雲	・PMF ・夏祭り ・雪平川いかだ下り ・ピアゴーデン ・バーベキュー ・花火大会 ・盆踊り
	晩夏									
秋	初秋			・紅葉 ・黄葉 ・実	・ナナカマド※ ・ミズナラ ・トチノキ※ ・ヤマモミジ ・ヤマモミジ ・イタカラエデ ・イチヨウ ・エゾヤマハギ	・カラマツ ・アカナラ ・スキ ・ナツツタ ・エゾノコリンゴ ・ニシキギ ・ツリバナ	・アキアカネ ・ノシメントンボ ・キリギリス ・トノサマバッタ	・福 ・桂 ・エゾシカ ・エゾリス※ ・キタキツネ※	・中間期 ・初雪 ・みぞれ ・うろこ雲 ・ひつじ雲 ・手稻山の初冠雪	・菊まつり ・マラソン大会 ・冬泳会 ・収穫祭 ・炊事遠足 ・銀楓会 ・玉ねぎの収穫
	晩秋									
冬	初冬			・落葉 ・常緑樹	・アカエノマツ※ ・トドマツ※ ・イチイ※ ・ニオイヒバ※ ・ナナカマド※ ・ブンケンストウヒ※ ・モンタナマツ※ ・クマイザサ※	・ナナカマド※ ・シラカンバ※	・ユキムシ	・シマフクロウ ・カラ類 ・キレンジャク ・ハクチョウ	・日が短くなる ・寒くなる ・雪が降る ・氷(霧柱、つらら、樹氷) ・吹雪 ・新雪 ・根雪	・ホワイトイルミネーション ・雪祭り ・スキー ・スケート ・雪かき ・ささら電車 ・雪吊
	晩冬									

*印は一年を通じて見ることができます。
この他にもたくさんありますので、考えてみましょう。

デザインのしどころ 季節的特徴の捉え方例

● 緑資源と環境条件を見極める

植物は、季節を感じる景観デザインの最も基本となります。シンボル樹木や並木などを保全・育成し、四季折々の演出を心がけます。植栽にあたっては、日当たりや水分条件、土壤条件との相性などを見極め、目的にあった植物を選択します。

白石のサイクリングロード

● 眺望できる景観を把握する

山や川などの緑が季節の変化を演出しています。通りから見える山なみや、さまざまな視点場から広がつて見える遠景の街なみなど、眺望できる景観を把握します。

藻南公園

● 季節ごとのイベントなどを把握する

雪祭り、よさこいソーラン祭りなどのイベントが、季節を印象づけています。季節ごとのイベントを把握し、市民活動を発展・誘発する仕掛けや場づくりが重要です。

よさこいソーラン祭

● 多様な生態系を保全する

水と緑の連続など、多様な動植物などが生息する自然環境を保全・創出することは公共施設等の整備の大切な役割です。地域の自然環境を把握し、施設整備が果たすべき役割を総合的に捉えることが大切です。

豊平川

デザインの箇所 季節ごとの景観形成の例

*冬の景観形成は、北国の個性づくりに重要な要素です。

■ 春

長い冬が終わり、一斉に咲き誇る花々が、春を感じさせます。春に開花する植物や芽吹きに特徴のある植物を導入し、季節感を演出します。

■ 夏

噴水や水路などの水景施設は、短い夏を演出し、清涼感を与える要素です。多様な形態の水景施設や親水空間の整備を検討すると共に、緑陰をつくる樹木の配置などを考えます。

■ 秋

紅葉する樹種や結実する植物は、秋を効果的に演出します。ナナカマドやエゾノコリンゴ、カエデの類などの植物を効果的に配置します。

■ 冬

～雪処理への配慮～
道路、河川、公園などに堆積する雪も冬の景観要素です。住民の協力を得ながら、景観面に配慮した雪処理の検討が必要です。

■ 冬 ～施設のデザインや色彩～

冬期間は、多くの街路樹が落葉し、建物や街灯、広告物などが際立ちます。このため、人工物のデザインや色彩などは、冬期間の重要な景観要素となります。夏・冬の季節の変化を通した総合的デザイン配慮が求められます。

■ 冬 ～照明～

北国の冬は夜が長いため、夜間の景観形成は大きな課題です。街灯などの暖か光の色や灯具のデザイン、ライトアップのなどが特徴的な冬の景観を演出します。

■ 冬 ～常緑樹の導入～

緑の少ない冬の景観を美しく特徴づけるために、常緑樹の導入は効果的です。

2 「さっぽろ」らしい景観デザインとは

◆「さっぽろ」らしい景観デザイン



1 (3) 地形的特徴を捉える

地形は、都市の成り立ちや景観形成の土台となるものです。

札幌の地形は大きく“扇状地・平地・丘陵地・山麓地”の4つに分けられます。まちから山なみへの眺望、山なみのスカイラインなど、この地形が持つ特色や恵まれた景観資源を手がかりに、景観形成を進めることができます。

2 ① 扇状地 ……中心部

札幌の市街地は、南西部の山麓地から北部の平地へと流れる豊平川がつくった扇状地上に発達しました。

扇状地では扇端のメム(湧き水)跡が、今もわずかなくぼ地になっています。暗渠化された小河川が、格子状街路に変化を生み出しています。

微地形と大樹が織りなす景観は、札幌の原風景的イメージを想起させる印象的な景観といえます。このような微地形が残っている場所として、北海道大学キャンパスや北海道大学農学部付属植物園などがあります。

3 ② 平地 ……北部

北部に広がる平地は、丘珠などに見られる農地の地平線と防風林などの垂直なラインが近景、中景をつくり、遠景には手稻山などの山なみが加わり、広がりのある印象的な景観を形成しています。

このような特徴ある景観として、篠路のボプラ通(防風林)などがあげられます。また、平地を見渡せる眺望点として、モエレ沼公園のモエレ山や、地平線を強調して山なみを仰ぐ前田森林公园などがあります。

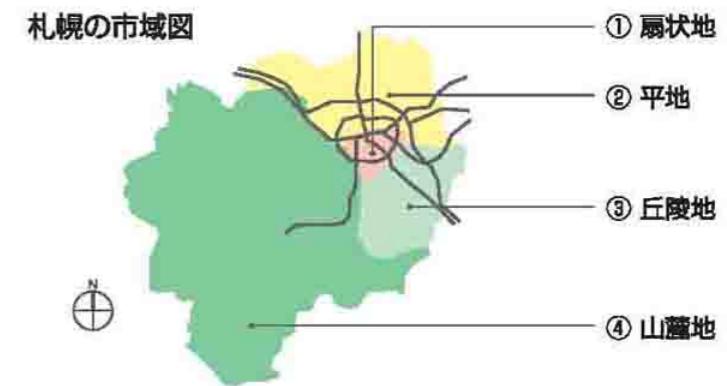


4 ③ 丘陵地 ……東部

河川ごとに波状の起伏があり、坂や崖などが多く存在しており、そこを横断する道路や、崖線の縁が地形を印象づけています。このような地形が印象的な景観をつくっている場所として、平岡や大谷地、もみじ台、札幌ドーム周辺から羊が丘の辺りがあげられます。眺望が開けるポイントでは、多くの山なみや平地を一望することができますが、現在では、市街化の進行により起伏のある地形を認識できなかったり、丘陵地からの眺望を確保にくくなっています。

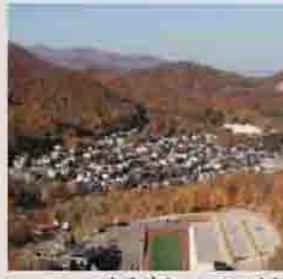
5 ④ 山麓地 ……南西部

山なみのスカイライン*や、ひな壇状の街なみ、坂、階段などが印象的な景観を形成しています。特にこれらの要素がまちづくりと相まって、印象的な景観をつくっている場所として、芸術の森や定山渓、真駒内などがあげられます。また、藻岩山や円山などの山麓の展望公園や緑地などでは、これらの要素が市街地の眺望と一体となり、とても印象的です。



6 デザインのしどころ 地域的特徴の捉え方例

● 傾斜地ならではの景観特性を見つける



宮の森シャンツェより

● 平地からの眺望を把握する



東区の平地

● 丘陵地の景観特性を把握する



滝野すずらん丘陵公園

● 山麓地ならではの視点場を意識する



旭山記念公園

7 デザインの勘所 土地の記憶の読み方例

■ 土地の原風景をイメージする

古地図やフィールドワークなどにより、人の手が入る前の「土地の原風景」をイメージし、地形的特徴や地形の変遷などを考慮した施設計画を行い、景観デザインを考えます。

■ 微地形を把握する

微妙な起伏や窪みは、以前に川が流れたり、湧き水が出ていた場所だったりと、その土地の原風景を考える手がかりになります。

地形の特徴を生かすことは、その場所の魅力や個性を引き出すことです。魅力ある景観を形成するためには、微妙な地形の変化を読みとり、生かすことが大切です。

■ 遠景 中景 近景を把握する

計画する施設から、遠景、中景、近景に何が見えるのかを捉え、そこから見える景観資源を生かすことが大切です。

計画する施設からの眺望を生かすことで、人の記憶に残る場の創出が可能となります。

■ 周囲との関係性を考慮する

計画する施設を遠くから、あるいは俯瞰して眺め、時間の流れや人の営みと合わせ、隣接する施設や周囲施設との関係がどうあるべきか考えます。良い景観デザインは良好な街なみをつくります。

2 「さっぽろ」らしい景観デザインとは

(4) まちづくりの特徴を捉える

市民が豊かで文化的な生活を営む場として、また、人、物、情報が地域を越えて活発に交流する場として、さらに新たな産業活動を生み出す場として、[歴史][季節][地形]の特徴を踏まえ、上位・関連計画からまちづくりの方向性を把握します。

① 都市と自然が共生するまちづくり

石狩平野の南西部に位置する札幌には、豊平川をはじめ多くの河川が流れ、市街地の周囲には、緑豊かな山なみなどの自然が広がっています。

このような自然環境を生かし、市街地を取り巻く環状グリーンベルトから都心部に向かうオープンスペースコリドー（うるおいの都市軸）を形成します。

また、市街地の内側からは、市民、事業者、行政の協働により緑を増やし、環状グリーンベルトとつなぐことで、都市と自然とが共生するまちをつくります。

② 都市構造を生かしたまちづくり

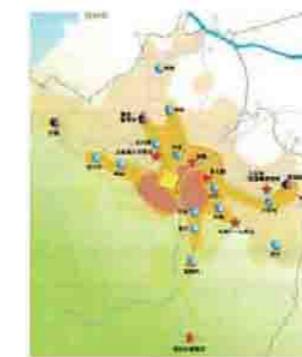
格子状街路による街区形成が、札幌のまちづくりの基本となっています。

また、その周囲には山麓地や河川などが市街地を取り囲むように位置し、それが都市構造を形成しています。

山なみや河川などへの空間的つながりや眺望景観を保全し、格子状街路を生かしたメリハリのあるまちづくりを行うことが、「さっぽろ」らしい景観形成につながります。

オープンスペースコリドー
(第4次札幌市長期総合計画)

都市構造(大通公園)

多中心核都市構造
(第4次札幌市長期総合計画)

市民参加

③ 多様な機能と個性を持つ地域づくり

都心部を中心に、高次都市機能拠点、広域交流拠点、地域中心核を配置し、相互にネットワークすることで、多様な機能と立地特性を生かした多中心核都市構造を形成します。

その周囲には、市民生活に必要なさまざまな機能が集積し、緑や眺望などの自然特性を生かした個性と秩序ある街なみを持つ住宅地をつくります。

市街地の外は、防風林や田園風景など、魅力ある景観を保全すると共に、山麓地においては自然あふれる水辺や緑地を生かした景観を形成します。

④ 市民参加によるまちづくり

都市は、市民が安らぎと潤いを感じながら暮らせる場であるとともに、生き生きと活動できる創造と自己実現の場でなければなりません。

また、市民が地域に魅力を感じ愛着を持ち続けるには、市民自らが地域のまちづくりに参加することが重要です。

すでにその芽生えが見えるように、今後、市民自治の進展により地域が自立し、市民がその立地特性を踏まえ、自らその環境をつくりだす時期の到来が予想されます。それが地域ごとの個性をつくり、ひいては市民文化の育成につながります。

デザインのしどころ まちづくりの特徴の捉え方例

● 都心部、拠点



札幌エルプラザ

「人が集い」「にぎわう」場をどうつくりだしていくかが重要です。建物が公共性を失いプライベートになった場合、外部とのコミュニケーションは失われます。

敷地の街路側や角地をオープンなつくりとし、パブリックな部分をつくることが、賑わいの創出につながります。

● 高度利用住宅地、一般住宅市街地



宮の森モール

豊かで愛着の持てる景観をどうつくりだしていくかが重要です。そのためには、住民の意向を把握し、デザインに生かす必要があります。

公共施設等の計画にあたり、住民参加を通して、意思決定を分担することが、愛着の持てる住環境づくりに不可欠となります。

● 工業・流通業務地



手稲工業団地

集約的な土地利用が、周辺の街なみに及ぼす影響にどう対応していくかが重要です。

大規模で多くの大型車両が出入する工場などがあることから、住民の生活行動を考慮しながら、緑道や公園などの緑地帯を配置し、周辺市街地の環境を保全します。

● 市街地の外、景観軸



豊平川

市街地の外は、地形や自然の保全を図るために、公共施設等の整備が環境や景観へ与える影響が最小となるよう工夫します。

景観軸は、緑豊かな山なみへ続く景観を保全するとともに、連続する幹線道路や河川敷などへの積極的な緑化を行います。

デザインの勘所 まちのイメージづくりの例

■ 軸線

軸線とは、視線が通った空間で、かつ周辺と比較し、強調されている場合をいいます。

特に、多くの人々が利用し、個性的な景観を形成している街路は、都市構造を明確にし、わかりやすい都市づくりの基本となるものです。

例えば、幅員が広い街路、河川、緑道、沿道に高い建物が立ち並ぶ街路など。

■ ランドマーク

ランドマークとは、周囲の中で、何らかの特徴を持ち、ひときわ目立つものをいいます。

特に、山なみや印象的な橋りょうは、広い街の中で、人々に方向感覚を与えるとともに、象徴的なイメージを形成します。

例えば、山なみ、印象的な橋りょう、歴史的な建築物など。

■ エッジ

エッジとは敷地、街区、地域などの境界のこと、異種のものが接する部分をいいます。

エッジは、さまざまなスケールで捉えることができますが、相互の境界がぶつかり合うと同時に結びつける役割を持っており、この部分の交わり方が、都市の新たな活力を生み出します。

■ 結節点

結節点とは、エッジと似ていますが、軸線どうしが交差することで、人が集まり、特徴ある空間をつくりだしている部分をいいます。

多くの人が集まるとともに、街なみに変化を与えるものとして、特に重要な部分となります。

例えば、交差点、駅、ターミナル、広場など。

◆「さっぽろ」らしい景観デザイン

